

地域づくりのための統計データの利用

兵庫県企画県民部
(統計課・ビジョン課)
芦谷恒憲



1

地域データ利用の意義

- ・見えなかったものが見える
データによる見える化
- ・新たな視点で価値が発見できる
データの組み合わせによる把握
- ・データから未来が予測できる
データによる行政施策への利用

2

地域データ利用をめぐる変化

- ・平成大合併(H17年～22年)で基礎的自治体のエリアが拡大(兵庫県:91市町→41市町)まちの実感(旧市町)と統計データ(合併后市町)にズレが生じる
- ・町丁字、メッシュ等小地域データが必要
小地域データ:歴史、現況、今後を予測する役割(道しるべ)が増大

3

地域統計の種類

- 1 町丁字別:〇〇町、〇〇丁目
- 2 小学校別:町丁字データ、基本単位区データから集計
- 3 市区町別:行政区画上のデータ
- 4 メッシュ統計:経度、緯度による区画単位データ→地域メッシュ間の時系列比較が容易、地理的な分析を視覚的に行うことができる。

4

小地域統計の利用例

- ・小地域統計とは
市区町村未満の地域単位で集計された統計
農業集落、町丁字、小学校区、中学校単位など
- ・町丁字で見ると地域差がわかる
→町丁字によって、異なる行政施策が実施可能
- ・小学校区という単位で見ると地域によって異なる
少子化の進展を確認可能
→人口減少に伴う施設の統廃合など

5

旧町別総人口の推移(朝来市) 人口減少幅にばらつき

総人口の推移

(単位:人、%)

項目	平成12年	平成17年	平成22年	H22/H17	H12=100
朝来市	36,069	34,791	32,814	▲ 5.7	91.0
旧 生野町	5,077	4,716	4,221	▲ 10.5	83.1
旧 和田山町	17,051	16,792	16,200	▲ 3.5	95.0
旧 山東町	6,392	6,203	5,932	▲ 4.4	92.8
旧 朝来町	7,549	7,080	6,461	▲ 8.7	85.6

(資料)総務省「国勢調査」

6

旧町別一般世帯の推移(朝来市)

市役所本庁所在地は増加

一般世帯の推移

(単位:人、%)

項目	平成12年	平成17年	平成22年	H22/H17	H12=100
朝来市	11,685	11,808	11,655	▲ 1.3	99.7
旧 生野町	1,818	1,705	1,583	▲ 7.2	87.1
旧 和田山町	5,556	5,750	5,862	1.9	105.5
旧 山東町	2,041	2,089	2,060	▲ 1.4	100.9
旧 朝来町	2,270	2,264	2,150	▲ 5.0	94.7

(資料)総務省「国勢調査」

7

加古川市町別総人口の推移

(2010年→13年で見ると)

増:①平岡町(1,160人)、②加古川町(866人)

減:①志方町(▲557人)、②神野町(▲382人)

総人口の推移		(単位:人、%)						
町別	2000 H12.10.1	2005 H17.10.1	2010 H22.10.1	2013 H25.10.1	2014 H26.1.1	H25/22 増減数	H25/H22 増減率	
総数	266,170	267,100	266,937	268,053	267,790	1,116	0.4	
4 平岡町	51,579	51,109	51,767	52,927	52,843	1,160	2.2	
1 加古川町	55,428	58,243	58,413	59,279	59,195	866	1.5	
3 野口町	36,870	36,766	37,256	38,055	38,167	799	2.1	
6 別府町	17,351	17,694	18,004	18,274	18,236	270	1.5	
5 尾上町	27,479	27,871	28,786	28,909	28,897	123	0.4	
12 米田町	6,070	6,044	6,051	5,921	5,916	▲ 130	▲ 2.1	
11 西神吉町	9,384	9,048	8,838	8,682	8,661	▲ 156	▲ 1.8	
10 東神吉町	14,953	14,672	14,175	14,008	13,992	▲ 167	▲ 1.2	
9 上荘町	5,817	5,546	5,056	4,863	4,837	▲ 193	▲ 3.8	
7 八幡町	4,864	4,856	5,464	5,230	5,229	▲ 234	▲ 4.3	
8 平荘町	5,279	5,098	4,752	4,469	4,443	▲ 283	▲ 6.0	
2 神野町	18,105	17,891	17,039	16,657	16,619	▲ 382	▲ 2.2	
13 志方町	12,991	12,262	11,336	10,779	10,755	▲ 557	▲ 4.9	

(出所)総務省「国勢調査」、市推計人口

8

加古川市平岡町丁字別人口

(1番増加した地域を5年間で見ると)

増: 土山(730人)、つつじ野(692人)など

減: 新在家(▲528人)、山之上(▲330人)など

総人口の推移		(単位:人、%)		
町丁字	平成17年	平成22年	H22-H17	H22/H17
平岡町土山	8,835	9,565	730	8.3
平岡町つつじ	408	1,100	692	169.6
平岡町高畑	4,599	4,762	163	3.5
平岡町二俣	7,400	7,537	137	1.9
平岡町中野	1,293	1,371	78	6.0
平岡町八反田	418	382	▲ 36	▲ 8.6
平岡町西谷	774	720	▲ 54	▲ 7.0
平岡町一色	6,019	5,825	▲ 194	▲ 3.2
平岡町山之上	4,037	3,707	▲ 330	▲ 8.2
平岡町新在家	17,326	16,798	▲ 528	▲ 3.0
平岡町計	51,109	51,767	658	1.3

(出所)総務省「国勢調査」

9

加西市地区別総人口の特徴

増加(北条、富田、九会)

減少(在田、西在田、賀茂、下里)

横ばい(富合、多加野)

地区別世帯・総人口の推移

(単位:世帯、人)

地区	世帯数		H22-H17		総人口			
	平成17年	平成22年	増減数	H17=100	平成17年	平成22年	増減数	H17=100
1 北条	4,837	5,036	199	104.1	13,500	13,614	114	100.8
2 富田	1,026	1,069	43	104.2	3,459	3,373	▲ 86	97.5
3 賀茂	1,076	1,054	▲ 22	98.0	3,829	3,528	▲ 301	92.1
4 下里	1,559	1,542	▲ 17	98.9	5,607	5,419	▲ 188	96.6
5 九会	2,013	2,060	47	102.3	6,771	6,554	▲ 217	96.8
6 富合	1,173	1,178	5	100.4	4,249	4,094	▲ 155	96.4
7 多加野	1,319	1,316	▲ 3	99.8	5,058	4,860	▲ 198	96.1
8 西在田	717	693	▲ 24	96.7	2,462	2,398	▲ 64	97.4
9 在田	1,318	1,240	▲ 78	94.1	4,461	4,153	▲ 308	93.1
計	15,038	15,188	150	101.0	49,396	47,993	▲ 1,403	97.2

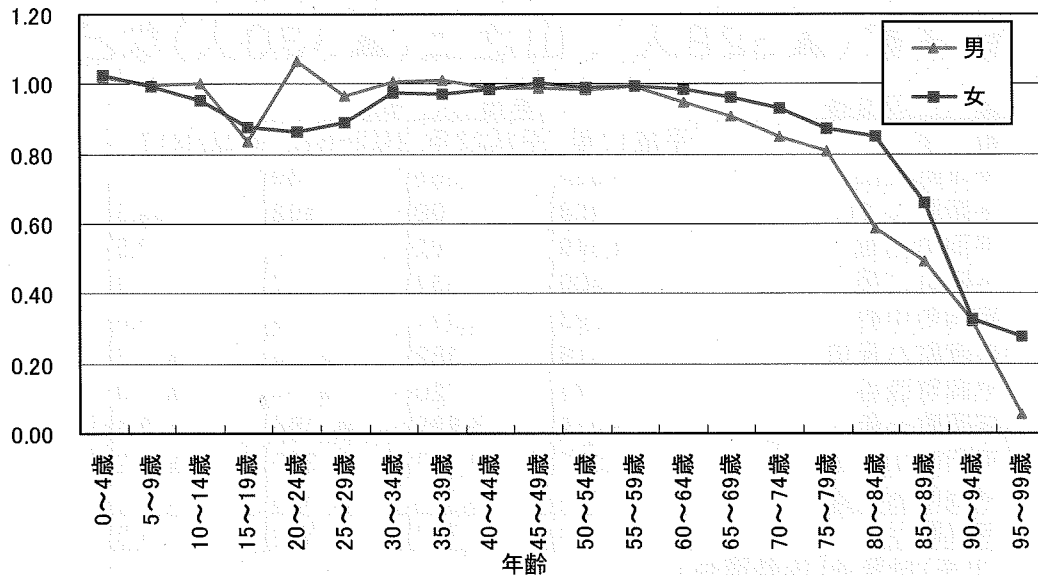
(出所)総務省「国勢調査」

10

加西市コーホート変化率

20-24歳は増加

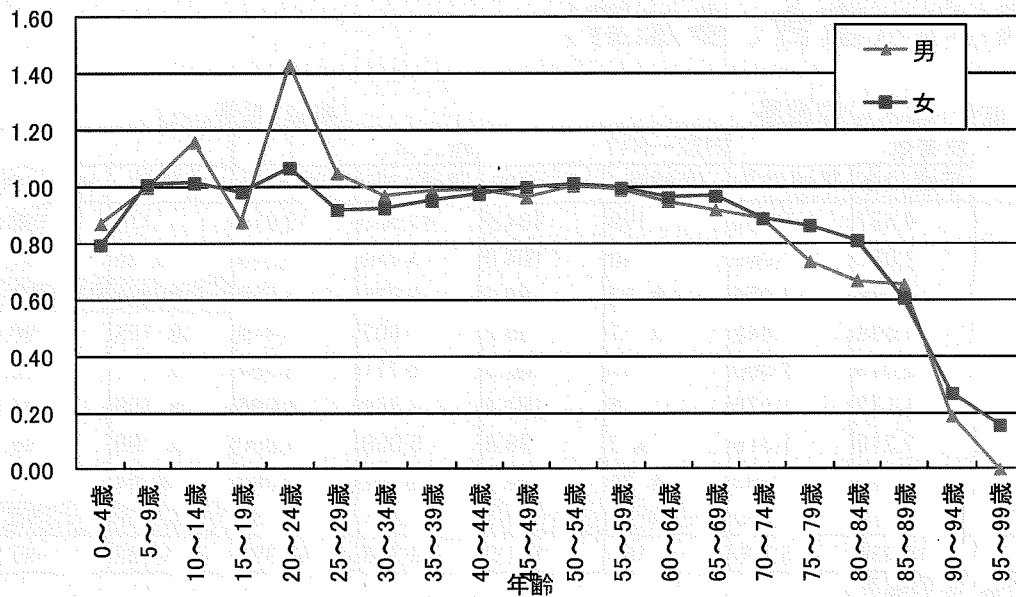
加西市 コーホート変化率 (2005年~2010年)



コーホート変化(2005年→10年)

加西市北条地区(男性20-24歳転入超過)

北条地区 コーホート変化率 (2005年~2010年)



加西市転入者アンケート(H24・H25)

20歳代：就職、結婚

30歳代：結婚、転勤

40歳代、50歳代：転勤

転入理由	転入(H24・H25)									
	就職	転勤	退職	進学	子供の進	住宅が建	結婚	両親や子	その他	計
20代	117	67	25	3	2	5	80	40	39	378
30代	15	83	12	1	4	7	64	47	34	267
40代	7	33	5	1	4	0	11	18	17	96
50代	4	14	4	0	0	1	4	5	13	45
60代	2	2	5	0	0	0	0	5	7	21
70代	1	1	1	0	0	0	0	7	8	18
計	146	200	52	5	10	13	159	122	118	825

13

加西市転出者アンケート(H24・H25)

20歳代：就職、結婚

30歳代：結婚、転勤

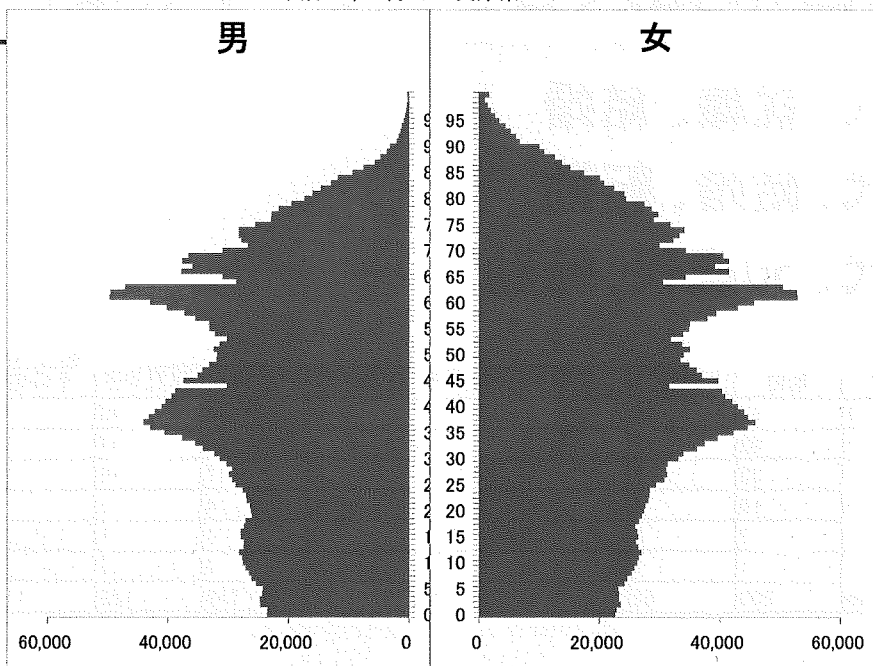
40歳代、50歳代：転勤

転出理由	H24・25転出											
	就職	転勤	退職	進学	子供の進	住宅が建	結婚	両親や子	両親や子	両親や子	その他	計
20代	238	65	16	17	3	3	228	7	8	3	36	624
30代	32	89	3	4	10	3	138	9	7	10	48	353
40代	9	43	5	1	2	4	20	2	7	1	13	107
50代	5	13	5	1	0	0	1	4	2	1	14	46
60代	0	2	3	0	0	1	1	0	0	6	3	16
70代	0	0	1	0	0	0	0	2	2	3	17	25
計	284	212	33	23	15	11	388	24	26	24	131	1,171

14

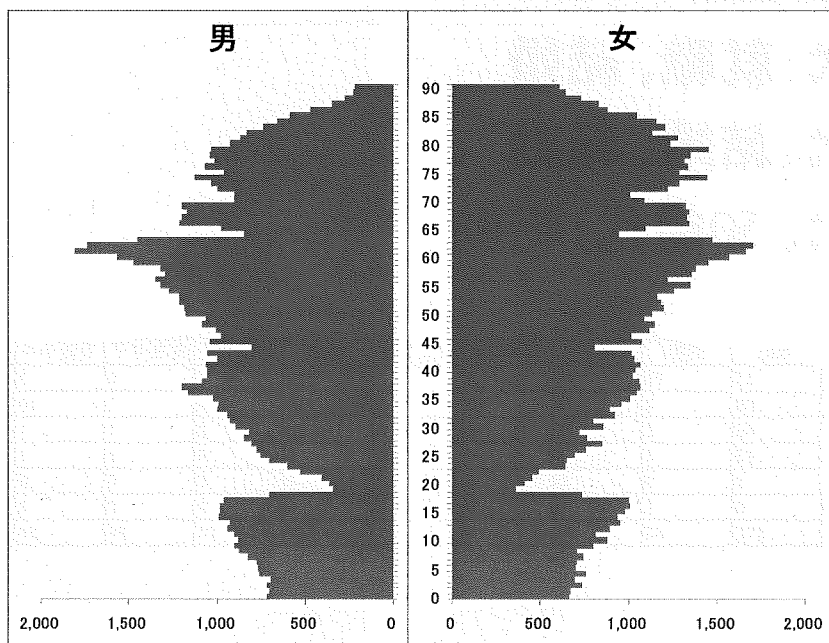
人口ピラミッド(平成22年兵庫県)2つの山 団塊世代(S22-24年生)、団塊ジュニア世代(S50-54年生)

平成22年10月1日 兵庫県

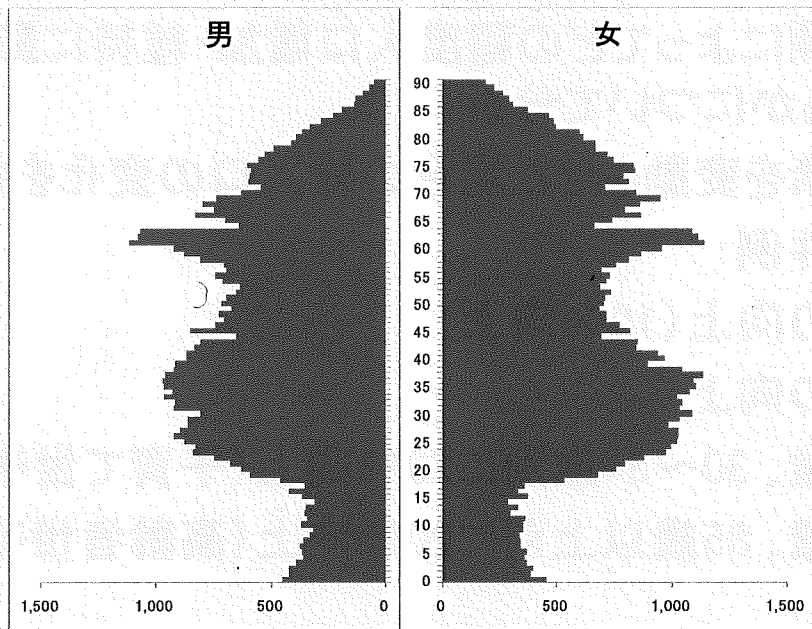


(資料)総務省「国勢調査」(年齢不詳を除く)

人口ピラミッド(平成22年但馬地域) 18歳～23歳域外転出

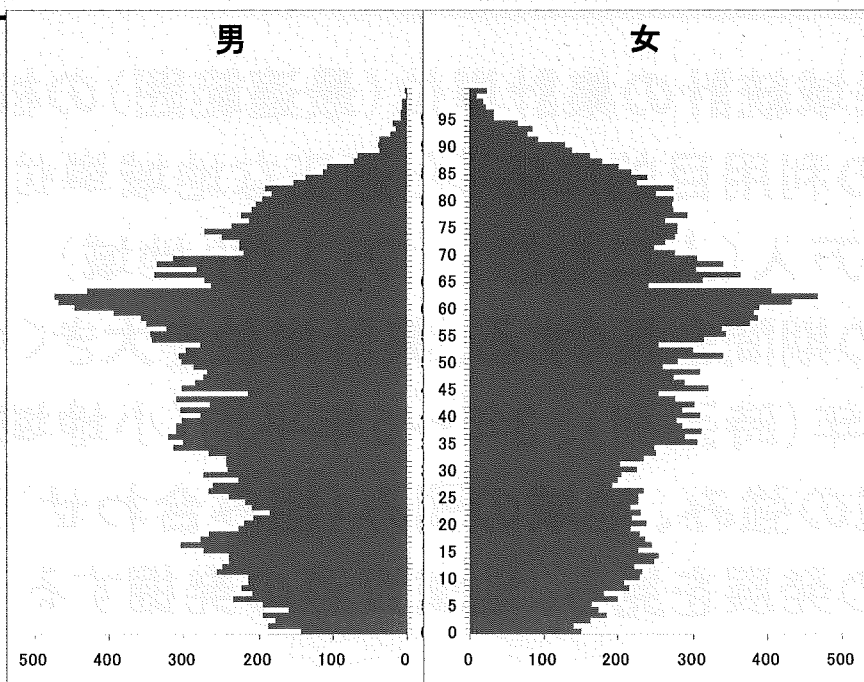


人口ピラミッド(平成22年神戸市中央区) 30歳~40歳(男性<女性)転入超過



17

人口ピラミッド(平成22年加西市) 団塊世代(転入)、団塊ジュニア世代(転出)



18

将来人口シュミレーション例 (感度分析)

施策展開によってどの程度人口増加・維持に影響を与えるかについて分析

次の要素を変動させた場合の総人口の変化を推計

前提条件例:

出生率の向上(10%向上)

変化率の向上

25～29歳、30～34歳別に20%向上(子育て世帯)

65～69歳、85歳以上別に20%向上(高齢者世帯)

19

地域統計利用に向けて

- 1 小地域統計の集計単位(最適範囲)の検討
統計の利用目的に応じた適正な地域単位
例:10万人(人口動態)、1万人(小地域)
観察の期間を長くする、集計単位を大きくする
例:10年(時系列)、3年～5年平均(小地域)
- 2 地域の強み、地域の弱み(組み合わせ)整理
地域の発展を見る、地域資源の発掘する

20

平成 26 年度兵庫県統計教育セミナーについて

1 日 程 平成 26 年 8 月 19 日 (火) 13:30~16:40

2 場 所 兵庫県職員会館 1 階多目的ホール

3 内 容

ア セミナーⅠ

統計的思考力を育む授業実践

講 師：奈良教育大学附属中学校教諭 西仲 則博

イ セミナーⅡ

岐阜県データ活用講座の実践～学校現場のニーズに応じた統計教材の提供～

講 師：岐阜県環境生活部統計課課長補佐 清水 浩二

同

大坪 辰也

4 出席者数

所 属	参加者数	
	26年度	25年度
大 学	8	3
高 校	16	12
中学校	9	3
小学校	1	1
小 計 a	34	19
その他団体 b	9	5
参 加 者 計 a+b	43	24

統計課職員を除く参加者数

5 出席者感想(アンケート結果)

ア セミナーⅠについて

大変参考になった 41.5%

参考になった 48.8%

参考にならなかった 2.4%

無回答 7.3%

イ セミナーⅡについて

大変参考になった 56.1%

参考になった 36.6%

参考にならなかった 2.4%

無回答 4.9%